
仁義なき龍の戦い

柳雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仁義なき龍の戦い

【Nコード】

N3179M

【作者名】

柳雨

【あらすじ】

20XX年、裏社会の住人『ヤクザ』：数十年に一度開催される日本、いや世界の天下の奪り合いたる『政府公認』の下選ばれし12のヤクザと組同士の戦いがあった、選ばれたヤクザの内の一人…とある組の二代目を張る若き龍が野望の地・日本をこの手に治めるべく、戦いに赴く。

（前書き）

最近公開された『アウトレイジ』という『全員悪人』がコンセプトの映画の影響を受け、本作を書いてみました、純粋な龍騎ファンの皆様は閲覧の際にはご注意ください

- 20XX年…今ここに、己の野望に燃える仮面の戦士達の新たな戦いが始まるうとしていた…。

『日本の裏社会を生きる全ての者達よ…心して聞くが良い…』

- 老人の様な…しかしそれでいて凄みのある声を出す黄金の不死鳥をイメージさせる様な仮面の戦士…仮面ライダーオーデインがありとあらゆる、とある人種達が居る場所の鏡を通してあることを告げた。

『ワシの名は雷鳳神ノ介…らいおう・ジンノスケ日本を統べる関東覇鳳会はおうの会長…と言えは解るじやろう？そしてまたの名を仮面ライダーオーデイン…聞けい！日本の「ヤクザ」諸君よッ！…』

「「「オオオオオオオ！」「」」

- 裏社会を牛耳る存在・ヤクザ、彼らに呼び掛けるオーデイン…雷鳳は御歳120歳を越え、『妖怪爺』という呼び名で呼ばれている『関東覇鳳会』の『現役』会長の肩書を持つ大人物、日本はおるか、海外の各マフィアやギャング達…果ては日本政府とまで関係を持ち、

『世界』すら掌握する程の究極の『権力』^{ちから}を持つヤクザの頂点といえる存在。

『今から十二の組とその代表たる「ライダー」達が戦い…最後に生き残った者だけがワシとの挑戦権を得る、それに勝ったにのみ！ワシの持つ全て…そう力だ、兵力・権力・財力！どんな女も好きなので抱かしてやるし！麻薬（シャ○）もやりたい放題だ！…そして何より！どんなヤクザも避けて通る日本を新たに牛耳る「最強のヤクザの称号」が！勝った者と組にだけに！！全て！与えられるのだアアアアアアッ！！』

「「「うおおおおお！？」」」

・数十年に一度、抽選によつて選ばれし十二のヤクザの間で開始されるという特別な戦い『仮面極道抗争』^{ライダーウォーズ}、ちなみにこの戦いは戦いに参加しない者達…ヤクザや各世界の首脳の資産家達の『賭け』や興味の対象でもあり、裏では莫大な賭け金が動いてること…。

「金！金！金だぜ！金！？ひゃーはっはっは！！勝ったら札束風呂だー！！」

「どんな女も頂けるわけか…ふへへへ…！！」

「シャ○が…切れてきた…うっ…シャ○を！シャ○をプリーイイイズッ！！」

・各々の欲望を満たすため、それぞれのヤクザ達が動き出す…。

- 場面は変わり、何処かの純日本風の屋敷。

「龍童オツ！！龍童は居るかッ！？」

「ンだよ…親父…？」

- 今年選ばれた十二のヤクザの組の一つ、『龍雲会』^{りゅううん}…傷の入った目に長い立派なヒゲに黒い着物姿のイカつい顔の男・星河豪龍^{ほしかわ・ゴウリョウ}は、背中に天を舞う金色の二匹の龍の刺繍がされてる赤いスカジャンを着込んだかなり目つき悪い二十代前半の青年・星河龍童^{ほしかわ・リョウドウ}を呼び出す。

「解っておるな？今年だけは絶対に負けられん…見る、このワシの眼！十年前、後一步で勝てたというところまでだったのにミスって傷がついたわい！！お前だけはこうなるなよ！？」

- 豪龍は以前も、選ばれたライダーの内の一人として『仮面極道抗争』に参加していた、しかし残念ながら雷凰IIオーディンとの戦いで敗退し、その代償が眼の傷であった…そして今年『仮面極道抗争』の参加者として選ばれた息子の龍童を身を安じて、注意を呼び掛ける。

「わーってるって！心配性だな、親父は…。」

- 頭をガシガシ掻きながら龍童はライダーに変身するための『カー

ドデッキ』を握り締めながら立ち上がる。

「さあて…一丁、おっ始めるか！行くぜ野郎共！！この日本^{くに}オレ達が奪るぞッ！！」

「「「オオオオオオオ！！」」」

「いつでも行けまっせ！坊ちゃん！！」

「若…ついにやるんですね！？」

・龍童の宣言と同時に外にいた部下である龍雲会の精鋭ヤクザ達から歓声上がる。

「ヒュー」頼もしい限りだぜ」

・龍童は口笛を吹きながら彼らを率いて外へ出る…戦闘開始の時である。

・その頃、他の組のライダー達も動き始めていた。

・とある学校近くでは…。

「おうワレ、どこの組のもんや？ああ？この辺一帯はワシら『牛頭鬼組』の縄張り（シマ）やぞゴラァ！？」

「牛頭鬼だかどつき漫才だか知らねえが、『邪九尊組』舐めると殺すぞ？おおコラ、テメエ！！」

・早速ライダーに選ばれた者達同士が出会い、互いの手下達が対立を始めると、『牛頭鬼組』のヤクザを引き連れた組長と『邪九尊組』のヤクザを引き連れた組長が先頭に立ち、カードデッキを取り出し…。

「「変身！！」」

・変身ポーズを取ると同時に二人の身体に重なるかの様にライダーの姿がオーバーラップし、二人の姿が変わる。

・牛頭鬼組組長は緑の牛を彷彿とさせる仮面ライダーゾルダに、邪九尊組組長は黄緑のカメレオンを彷彿とさせる仮面ライダーベルデに変身、互いに構えを取りながら睨み合いになる。

『ブチかませッ！』

「SHOOT・VENT」

「「うおおおお！！」」

『一匹たりとも逃がすんじゃねえぞ！！』

「SWING・VENT」

「ハッハッハッ！」「ハッハッハッ！」

・ゾルダはアドベントカードを銃型のギガバイザーのカードリーダーに読み込ませて『ギガランチャー』を、ベルデは左太股のバイオバイザーにカードを読み込ませヨーヨー型の『バイオウィンダー』を装備。

『死にさらせ！！』

「うぎゃあああああ！！」

「がああああ！？」

「きゃあああああ！！」

・着弾と爆風に巻き込まれてしまう付近の学校の生徒や行人のひとなどお構いなしにギガランチャーをブツ放し、邪九尊組のヤクザ達を爆殺するゾルダ。

『邪魔だ、ボケッ！！』

「ぎゃ……！！」

「ぐふ……。」「

・ベルデも周りにお構いなくバイオウィンダーで無関係な者を巻き込みながら敵ヤクザを叩き殺しまくった。

「死ね！！」

「テメエらが死ね!!」

「ぎひゃああああ!!」

「いやああああ!!」

・互いの手下のヤクザ達の拳銃やマシンガンによる射撃で関係者は勿論、無関係な人間までもが血祭りにされる…。

・ちなみに本来なら鏡の世界『ミラーワールド』を使えば良いのだが、『仮面極道抗争』の政府とヤクザが管理する期間限定の戦い、故に例え無関係な人間を殺そうが建物を破壊しようが、後々彼らが全て最初から『何も無かった』かの様にマスコミや警察組織に圧力をかけて処理する。

・なので…ヤクザは何をやっても許される、何もかも全て国のお偉いさんが全て揉み消してくれるし、警察も全く介入出来ない…期間限定だが、日本はまさにヤクザによるヤクザのためのヤクザの犯罪天国に成り下がったのだ。

『まとめてくたばれ…!!。』

「FINAL・VENT」

・ゾルダは全ライダー共通の『切り札』である『ファイナルベント必殺技』のカードを発動…ライダーの契約モンスターと呼ばれる存在の内の一体・バツファロー型モンスターの『マグナギガ』を召喚し、同時に重火器系の完全武装を遂げたゾルダはニヤリと笑いながらベルデ達に向き合う。

『発射アッ!!』

『…う、うわあああああ!?!引け!撤退!撤退だアッ!!』

・ベルデは本能的にゾルダのヤバさを察し、邪九尊組のヤクザ全員を引き連れて撤退する。

「いぎゃあああああ!!」

「お母さ…あああああ!!」

「死にたくないイイイ!!」

・ゾルダとマグナギガから放たれるビームや銃弾などによる広域範囲の殲滅技『エンドオブワールド』で逃げ遅れた邪九尊組組員は勿論、生徒達の手足や生首や内臓がブチ撒けられながら焼かれ、撃ち抜かれてしまい、学校も崩壊してしまう。

『チツ…逃がしたか!』

・ゾルダはベルデを逃がしたことにムカつきながら舌打ちする。

「しかし、あの技スゲーッスね、組長…学校が瓦礫になったりガキ共が大勢おっ死にましたし。」

『学校?ンなもん、代わりに駐車場かマンションでも、おっ建てときゃ世間のためだろ?どうせ賠償は国持ちだし…。』

「違うないっスね!ぎひゃひゃひゃひゃ!!」

- ゾルダは生徒の死体を踏みつけながら、何の罪悪感も感じずに手下を連れて、彼らも撤退した。

- 都内の病院付近では…。

『ガウウウウウー!!』

『キエエエエエー!!』

- 『水虎組』の若頭が変身する青と白銀が混じった虎に似た鎧と仮面を纏う仮面ライダータイガと『嵯蛮那組』の若頭が変身する金の角をあちこちに生やしたブラウンの鎧のレイヨウに似た仮面ライダーインペラーが激しい接戦を繰り広げ、しまいには院内にまで入り込んでしまっていた。

『咲いた〜♪咲いた〜♪チューリップ血百合津符の花が〜♪』

「STRIKE - VENT」

「ひぎいいいいい!!」

「うがごが…!?!」

- タイガは歌を歌いながら、爪型の武器『デストクロー』を両腕にはめてインペラーや敵ヤクザごと、病室で寝ていて動けない怪我人・病人を問わずに患者達を引き裂き、返り血を全身に浴びる。

『ぐふ!?しかし…ドリルは男の浪漫ンンンンッ!!負ける道理は無イイイイッ!!』

「SPIN - VENT」

「きゃあああああ!？」

「ふげあああああ!！」

・インペラーもお返しに、二対のレイヨウの角を象ったドリル『ガゼルスタップ』でタイガを攻撃しようとしたが、あっさり避けられ…哀れにも、代わりに犠牲になったのは看護婦や医者達だった。

『ガハハハハ!！ワシらも力チ込むぞ!！』

「ADVENT」

『グウウウウ…!！』

「「「おりゃあああああ!！」」」

『「!？」』

・突如、『さいのかわら犀乃河原会』会長が変身した鋼鉄の犀をイメージした様な姿の仮面ライダーガイ、契約モンスターを呼ぶ『アドベント』のカードで呼ばれた犀型モンスター・メタルゲラス、そして組の構成員が乱入してきたのだ。

『行くぞい!見させ!これが…ワシらのオオオオオオオ!！』

・すると犀乃河原会一同は全員走り出し…。

『ロケット人間漏血津斗じゃイイイイ!！』

『グオオオオオオ！！』

「「「押忍、会長！ぬおおあああああ！！」」」

『ギヤアアアアアア！？』』

「「「あああああああああ！！」」」

- なんと、その名の通り自らがまるでロケットの如く全員がブツ飛び、頭突きで敵（中には無関係な者も巻き込み）に特攻するという全くもって意味不明な攻撃を仕掛けた…ちなみに意外と効いており、タイガとインペラーは重傷、生身の人間は即死である…ガイ達の勝利は決まったも同然だった。

- 都内の警察署では…。

「やあやあ…『翼神会』の黒澤さんやないですか？」

「…『蛇舞会』の巳道…これはお前がやったのか？」

- 『蛇舞会』の若頭である関西弁でヘラヘラ笑う小狡いキツネみたいなイメージの細目の男・巳道と、『翼神会』の二代目組長となつた片目を黒髪で隠した猛禽類を思わせる鋭い目つきの若者・黒澤が対峙する…。

- ちなみに彼らは今、署長室の椅子に座って話していた…室内では何かでドロドロに溶かされ、変わり果てた姿の署長やその部下達の死体が転がり、悪臭が立ちこもっていた。

「相変わらず趣味が悪いな…。」

「へへ…オレ昔から警察（犬ッコロ）は好かんのや、だ・か・ら…
みーんな、殺してやったで…いやー、偉ぶった警官やら刑事^{デカ}やら殺
すのは癖になるで…こういう風になー!」

『シャアアアア!』

「…!」

・巳道がそう言った次の瞬間…突然、窓ガラスから紫色のコブラ型
モンスター・ベノスネーカーが現れて飛び掛かったが、黒澤は慌て
て身を翻して避けた。

「変身…!」

・黒澤はカードデッキを取り出して、蝙蝠を彷彿させる西洋騎士の
様な姿の仮面ライダーナイトとなる。

「ヒヤッハッハッハッ!変身!」

・巳道もすかさずカードデッキを出して紫色の毒蛇^{コブラ}に似た凶悪そう
な狂戦士・仮面ライダー王蛇となった。

『一度あんさんと本気で殺し合ってみたかったんや!』

「SWORD・VENT」

『フン、お断りだ…クレイジー野郎!』

「GUARD・VENT」

・王蛇は毒素を含んだ剣『ベノサーベル』でナイトに斬り掛かるも、ナイトはマント型の『ウィングウォール』でこれを防ぐ。

『そういえば知ってまっか？龍雲会の星河組長の息子が今回の戦いに参加するのを…!!』

『龍雲会組長の…?』

「SWORD・VENT」

・王蛇の斬撃を槍型のウィングランサーで捌きながらナイトは彼の話に聞き入っていた。

『星河豪龍は前回の戦いで勝ち残り、あの妖怪爺・雷凰にまで辿り着き…惜しくも敗退したっちゅー話や、そして今回は息子が参戦しとる…ワクワクせえへんか?』

『…オレには関係無い。』

「FILAL・VENT」

『キイイイイイ!!』

『…つれない奴やな!!』

「FILAL・VENT」

『シャアアアア!!』

・二人はそれ以上会話を続けずに、必殺技を発動…ナイトは蝙蝠型のモンスター・ダークウィングとの連携によってドリルの如く高速回転しながら突貫する『飛翔斬』を、王蛇はベノスネーカーから放たれる毒液の勢いを利用したキック『ベノクラッシュ』を放ち、互いの命の奪り合いになる…。

『うおおおおおおお!!』

・そして…。

『ハハッ!!またどこかで会いましょ!!』

『出来れば二度とゴメンだな…』

・王蛇は窓から飛び降りてさっさとどこかへ消えてしまい、ナイトは苦笑しつつ変身を解いて同じくどこかへ行ってしまった…お互いに腹を押さえながら…両者痛み分けの引き分けであった…。

・そして…。

「オラオラ!どけどけー!」

- 真夜中の街を盛大に騒がせる暴走族達是对向車線であるにも関わらず狂った様に走りまくる…だが。

「ギャアアアアア!？」

- 突然現れた黒塗り高級車に何人かが撥ねられた。

「この野郎!やる気がコラアツ!？」

「降りろテメー!!」

- 暴走族の内の一人がドアに近づいた途端…車の窓が開かれて黒い何か投げ込まれ…。

「あががあががあ!？」

- なんと感電してしまい倒れてしまう…投げ込まれたのはスタンガン、しかも改造され出力が最大である。

「ハッ…なんだか小煩エ、ハエ共がイキがってやがるぜ…。」

- そして高級車から数人のヤクザと一人のスカジャンを着た青年…龍童が現れ、暴走族達全員に戦慄が走る。

「対向車線を走ってりゃ…フツ飛ばされんのは当たり前だがーッ
!!!」

「ゲブ…!？」

- 龍童の子分達が次々と暴走族の一人一人にヤキを入れはじめた。

（そういえばオレもゾクやってたっけなー…先輩達元気にしてるかな。）

・龍童も昔、暴走族の頭をしてたことがあり、自分の学校の仲が良かった先輩達がやってる他の暴走族グループとの交流もあったことを思い出してた。

「どうしたガキ共が…！」

「喧嘩ふっかけて走ってんだろ？買ってや…って、若？」

「わり、そつから先、オレに言わせて。」

「へ…へい？」

「が！？」

・子分が暴走族を脅しにかかると何か言いたい様子の龍童が何故か彼らの間に入るなり、いきなり暴走族の胸倉を掴んだ。

「ヤクザもんと喧嘩やる時は中途半端はよしとけよ？出来るわきゃねーけど、オレ達を生殺しにするとテメーらの命取りになるぜ？何故だか解るか？」

「ぐが…知ら、ね…。」

・相手の胸倉を掴む力を強めながら意気揚々と話す龍童は続ける。

「それはよ…ヤクザは、やられたらやり返すのが流儀なんだよ、ど

こへ逃げようが、十年だろうが二十年だろうが…日本全国、追い詰めて必ずブチ殺してやるぜ？」

「ヒッ…！！」

・ヤクザが如何に恐ろしいものか、ヤクザを舐めた者がどんな報復しかえしを受けるか…大勢いるはずの暴走族達は全員、完全にたった数人程度の龍童含めたヤクザ達にビビッていた。

「どうした？オラ…？喧嘩がやりたきや買ってやんぜ？それとも…ヤクザにや道を開けるんかテメーらは！！」

・次の瞬間…龍童の拳が暴走族の顔に放たれ、メリ込んだ。

「…てめえの命奪タマられる程度でビビってるような、そんないい加減な覚悟の不良ならやめちまえ！このオカマ共がア…ッ！！」

「ぶぎやああああ！！」

「若！今の御演説！見事ッした！！」

「坊ちゃん！！それでこそ漢おとこッス！！」

「よせやい…ガラになく照れるじゃねえか…ん？」

・子供達の熱い熱演に感動した龍童は途端に何かの気配を感じるとそこにいたのは…。

「ギヒ…ギシシシシ…て、てめえらヤクザは…この、お、俺…
たらば多羅刃組』の波佐見様が…し、始末してやらあ…！！」

- 麻薬でもし過ぎたのか？多羅刃組の波佐見なる口から泡を出して
る眼の焦点の合わないフラフラな足どりの怪しい男の、手に持つも
のに龍童は驚いた。

「…この麻薬（シャ○）中野郎、ライダーか…行くぜツ！変身！！」

「変身…ゲヒヒヒヒ！！」

- 龍童はカードデッキを取り出し、顔には銀の仮面、腕には赤き龍
の頭を象った手甲ガントレットタイプの『ドラグバイザー』を装着した騎士・仮
面ライダー龍騎に。

- 波佐見はオレンジにも金にも見える装甲を纏うカニ型の仮面ライ
ダーシザースに変身した。

『先手必勝！！ドラアツ！！』

『ギヒ…！？き…汚ね…！！ぶご…！！』

- 龍騎はいきなりシザースの顔面に飛び蹴りをかまし、さらに頭突
きに加え…。

『オラオラ！これでも食らいなツ！！』

『あああああ！！眼が…眼があああああ！！』

- なんと、どっから出したのか？龍騎は催涙スプレーをシザースに
フツかけて目潰しをしたため、眼を押さえながらム。力のごとくシ
ザースが悲鳴を上げた。

『シャ。中野郎が！シャ。に頼るなんざ心の弱エ証拠なんだよ！！』

『ガ…ぐ…べ…！！』

・さらには龍騎はメリケンサックをハメて顔を滅多打ちにした、『
仮面極道抗争』の規定には特に決まった反則は定められては無いが
これは酷過ぎた…まさに外道！！

『ふざけた真似、しやがつて…！！カード使えやツ！！』

『ハンツ！戦いなんてのはな…勝ちゃーいいんだよ！勝ちゃー！！そ
れこそどんな手段も選ばずにな！ギャーハッハッハ！！』

・…トコトン、ド外道な龍騎は悪びれる様子もなくゲラゲラと笑い
出した…しかも一言一句100%悪党のセリフである、さすがヤク
ザの息子…。

『死にさらせ！！』

「STRIKE-VENT」

『おお？人間様以下のシャ。中が武器持ったのか？進化だーッ！！』

・シザースはハサミ型の武器『シザースピンチ』を出して装備する
が、龍騎は恐れるどころか相手を見くびりまくりな発言をしてゲラ
ゲラ笑う。

『がああああ！！』

『…って、うお!?!』

- しかし、シザースバイザーとシザースピンチによるダブル攻撃で首を掴まれ、龍騎は地面に叩きつけられてしまい、組み伏される。

『し…締め殺してやるぜ…ウヒョヒョヒョ!?!』

『…どうかな?』

『な…いぎい!?!』

- しかし…龍騎は至って冷静に…シザースの股間を思い切り強く抓り、ギユウギユウ締め上げるといってもないことをやった。

『いぎやああああ!?!』

『スキ有り!?!』

「STRIKE・VENT」

『あつ…熱ああああ!?!』

(これが…坊ちゃんの戦い方、なのか?)

(やることなすこと全て汚ねえが…強えー…)

- 龍騎は赤龍の頭を模した『ドラグクロ』を出してシザースの顔を焼く、尚、龍童の子分達は全員彼の手段を選ばない恐ろしい戦い方を見て震え上がった…。

- かし。

「ADVENT」

『ギエエエエ！！』

「うわあああ！？バケモンだああ…ぐえ！！」

- シザースはカニ型モンスター・ボルキヤンサーを召喚、暴走族達を喰らったり、ハサミで切り刻みながら襲いかかる。

『がふ！？』

- 龍騎はハサミの一撃をモロに食らい、倒れる…。

『死ね！！』

「FINAL - VENT」

- シザースは必殺技を発動、ボルキヤンサーはハサミを組んでスタンバイし、シザースはそのハサミに乗るとまるでバレーボールのトスの様に打ち上げられ、高速回転しながら龍騎に突っ込む『シザースアタック』を仕掛けた。

『がはああああ！？』

「若！！」

- シザースアタックを食らって地面を転がる龍騎に子分達が近寄るが龍騎はそれを制止させる。

『…平気だ、ンなもん…それにオレは、親父が勝てなかった雷凰^{シジイ}…いや、オーデインの首と天下奪る男だ…たかがシャ。中に…!!』

・未だかつて一度たりとも敗られなかった雷凰の不動の不敗伝説とそれを敗つての日本と世界の完全制覇…龍騎は目的^{ユメ}を果たすまで、こんな…。

『殺られるわけには…いかねえんだよ!!』

・こんなシザース（蟹公）にやられてなどいられないのだ!!

「FINAL - VENT」

『ギャオオオオオ!!』

『ハッ…ハアアアアア!!』

・龍騎も必殺技を発動し、雄々しき咆哮を上げて天を舞う赤龍型モンスター・ドラグレッダーを召喚し、ドラグレッダーが吐き出す火炎弾の勢いを乗せたキック技…『ドラゴンライダーキック』を放った。

『ヒッ…ヒエ!?ウギャアアアアア!!』

『ギジャアアア!!?』

「…わああああ!!?」

・シザースとボルキヤンサーを撃破…ついでに暴走族も巻き込ませ

て全滅させた。

『はあ…はあ…殺ったか…。』

- 変身を解いた龍童はボタンとアスファルトに倒れ込み、夜空を仰いだ。

「若!!お怪我は!?!」

「坊ちゃん!大丈夫でつか!?!」

「なんとかな…。」

- 心配する子分達一人一人に声をかけて自分が無事であることを告げる龍童。

「なるほど…お前が星河豪龍の息子か…お手並み拝見させてもらった。」

「誰だ、テメー?」

「…吠えるなよ、今日はやる気じゃねえ…。」

- 突然現れた男に龍雲会全員が警戒した、しかし男はやる気ではないらしい。

「やり方はどうあれ強いことは解った…だが、いずれオレが貴様を始末するから覚悟しな…。」

「上等だコラ…オレは龍雲会二代目…星河龍童!仮面ライダー龍騎

だ！覚えておきな！！」

・ 宣戦布告をした男に龍童が名乗ると男はフツ…と静かに笑いながら自分も名前を告げた。

「『^{せい}星河を巡る龍の童^こ』、か…洒落た名前してるじゃねえか、オレは翼神会の二代目張ってる黒澤…仮面ライダーナイトだ、覚えておきな…。」

「覚えてやるよ…あと、いいね、その名乗り…『星河を巡る龍の童』、気に入ったぜ、使っていいか？」

「好きにしろ…」

・ 龍童は彼が言った自分の名前の表現が大層気に入り、黒澤からそれを貰い自信満々な笑みを浮かばせ、黒澤はさっさとどこかへ消えてしまった…。

・ ライバル宣言にも等しい二人のライダーの出会い、そしてまだまだ裏社会を騒がせ、野望に燃える男達の『仮面極道抗争』は終わりの気配を見せず、むしろより熱く、より苛烈に展開されていくのであった…。

（後書き）

どうも皆様、本作の作者である柳雨といいます

本作のコンセプトは『全員悪人』『ヤクザ同士のバトルロワイヤル』、書くのがかなり大変で、かなり勇気がいりました…

龍騎に変身するオリジナルキャラ・星河龍童、彼の名前の由来は『魔弾戦記リュウケンドー』という特撮のメインヒーロー『龍剣童^{リュウケンドウ}』の漢字表記から、スカジャンもリュウケンドーの主人公・鳴神剣二もスカジャンだったことから採用しました、苗字だけは適当（おい作者）です…。

『^{せい}星河を巡る龍^この童』というくだりですが…完全に天道マネてます（汗）

悪人全開、当て字（組の名前など）全開、バカ技（人間漏血津斗など）全開…龍騎ファンの皆様本当にごめんなさい

ついでに卑怯な戦い方や思考は、かつて『コロコロイチバン！』で連載されていた『^{カードウォーリアー}駈斗戦士仮面ライダーズ』の主人公ライダーの龍騎の戦闘スタイルだったりします（おい！）

続きがある感じのグダグダな終わり方になりましたすみませんがいかななものでしょうか？

それではまたどこかでお会いしましょう、柳雨でした！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3179m/>

仁義なき龍の戦い

2010年10月11日05時49分発行